

【令和7年度 考察及び、次年度に向けて】

生徒のアンケート結果から、「先生方や友達に元気なあいさつができています」に肯定的な回答をした生徒が95%と、前年度より増えており、今年度の重点目標を意識して生活できていたことが伺えました。また、「学校生活が楽しい」「みんなと仲良く協力して学校生活をすごしている」「学級に仲のよい友達がいる」は、95%以上の生徒が肯定的な回答をしており、充実した学校生活を送れている生徒が多いことが伺えました。

学習面に関しては、「適切に評価されている」という項目が、前年度に比べて若干低くなっていますが、約92%の生徒が肯定的な回答をしていることや、「わからないことは先生方や友達に聞いている」に肯定的な回答をした生徒が90%おり、今年度も教師と生徒の関係性や、生徒同士の関係性の良さが感じられました。しかし、前年度同様「授業中、自分の考えや意見を発表する等、意欲的に取り組んでいる」という項目に関しての肯定的な回答が約64%と、全項目の中で一番低くなっています。自分の意見や考えを発表することに抵抗感がある生徒が多くいることが伺えます。次年度は、生徒が自信をもって自分の考えや意見を発表できるように、様々な面で失敗や間違えを恐れず、互いを認め合えるような人間関係や授業づくりを目指していきます。

いじめ対策に対しては、すべての項目で肯定的な回答が高くなっています。特に、「いじめやからかいをせず、見て見ぬふりもしていない」への肯定的な回答は95%以上と高く、「いじめは許さない」ということを、学校全体で共有しながら生活できていることが伺えます。次年度も、道徳教育の充実と、特別支援学級との交流等を通して、お互いの個性や多様性を認めあえる学校づくりをしていきます。

保護者のアンケート結果からは、教育相談に関して肯定的な意見を多くいただきました。特に、今年度は一年生に対してスクールカウンセラーが全員面談を実施し、昨年度よりスクールカウンセラーに相談することへの抵抗感が薄れた様子でした。生徒や保護者からの相談件数も増え、情報共有しながら、個に応じた対応をとることができました。次年度も、スクールカウンセラーをはじめ、スクールソーシャルワーカーの活用も積極的に行い、学年職員や担任との情報共有を密にしながら、生徒一人ひとりの悩みや相談事に、学校全体で取り組んでいきたいと思えます。

地域連携については、コミュニティ・スクールを活用し、今年度も1年生の家庭科の授業でボランティアの方を招いて、浴衣の着付け体験を行いました。生徒が使用した浴衣は、すべて地域の方からの寄付によるものです。また、3年生の書き初めの授業の補助や5組（特別支援学級）の折り紙の授業を、コーディネーターを中心に、地域の力を活用させてもらって実施することができました。さらに、PTA役員やおやじの会の皆さまに、学校行事等へのご協力をいただき、円滑に学校行事を進めることができました。その他にも、本校の校庭を使用して地域の夏祭りが開催され、多くの生徒が参加するとともに、本校の教職員やおやじの会の皆さまが見回りとして

参加させていただきました。また、本校の体育館では敬老会が行われ、合唱部が歌を披露する等、地域の方に支えていただくとともに、保護者の方のご理解をいただきました。保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携が取れていますか」の項目で、肯定的な回答が95%と高かったのも、。地域や保護者の皆さまのご協力やご尽力があったからだと感じています。次年度も、地域連携を積極的に行い、学校・家庭・保護者が一体となって生徒を見守っていく体制をとっていきたいと考えています。

学校運営協議会委員の方々からは、生徒たちが「学校生活が楽しい」と感じているのはとてもよいことだとお褒めの言葉をいただきました。また、地域でも、積極的に挨拶する生徒がたくさんいて嬉しいというお言葉もいただきました。さらに、生徒や保護者の皆様の評価の高さが、芝山中学校の教育の充実を表していると感じますとのことでした。改善点としましては、生徒たちが自分の意見や考えを発表できるように、授業改善に努めてほしいとのことでした。来年度も、地域や保護者の方に信頼され、ご協力いただけるような学校を作ってまいります。